



BY KATHY LIEN

今日のFXマーケット 01.24.12
(2012年1月25日発行)

暫くの間欧州に関する話題ばかりが取り沙汰されたが、水曜日に市場の注目は、FRBが金融政策の伝達に関する方針の一大転換を実施する米国に移るだろう。これらの変更は透明性の向上に向けて行われるものだが、結果的に明瞭性ではなく混乱を与えることにもなりかねない。FRBは史上初めて、金利の見通しを発表する。現在FEDは2013年度半ばまで、金利を「異例に低い水準」に維持することを確約し、実質的に少なくとも来年度後半までは引き上げないことを宣言した。FEDが毎月緩和重視の姿勢を投資家の心理に浸透させ続けた結果、フェデラルファンドのフューチャーが2014年7月まで利上げのない状況を価格に織り込んでいることから判断しても、マーケットがFEDの意向を十分認識していることが伺える。にも拘らずFEDは緩和姿勢の一層の浸透を目指し、金利が上昇を再開する時期について、自らの予測を発表することにした。市場の最大の関心事は、FEDが政策金利を引き上げようとするタイミングである。それが近い将来でないことは、誰もが知っている。しかしもし今回、2013年度第四四半期の利上げ予測が発表されれば、米ドルにとっては極めて好材料である。ただしマーケットがFEDのハト派的姿勢を過小評価する確率は低い。なぜならFEDは、金融政策が当面超緩和気味に維持されることを、普段にも増して極めて明確に表明しているからである。さらにFOMCにおける議決権の輪番制により、2012年度はハト派メンバーの数が増えている。したがってFOMCの過半数が最低2014年度後半まで利上げなしを予測すれば、投資家の量的緩和第三弾に対する期待は高まり、米ドルが下落する公算は高い。

FEDの発表について

第一に重要なことは、明日FRBが何時に何を発表するかを、正確に承知しておくことである。12:30pm : FOMC ステートメントの発表。2:00pm : 経済およびフェデラルファンドレート (FF) に関する予測の発表。2:15pm : バーナンキ議長の記者会見、FRBによる決定事項の説明。為替トレーダーにとっては、相場が動くチャンスが三度訪れる。

- 12:30pm ET / 5:30 GMT – FOMC ステートメントの発表
- 2:00pm ET / 7:00 GMT – FOMCによる経済とFFレート予測の発表
- 2:15pm ET / 7:15 GMT – バーナンキ議長の記者会見

FOMC ステートメントは、政策金利の水準と量的緩和の規模に変化のないことを告げるだろう。FFレート予測を事前に漏らすことを回避しつつ、伝達方針の変更について巧みな解説が行われる。したがって最低限でも、2013年度半ばまで超低金利を維持するという確約は、今回新たに導入される金利予測を織り込んだ表現に変更する必要がある。2pmには二種類のグラフが発表される。一つは2016年度までの各年にゼロ金利政策解除を予測するメンバーの数を表示する。二番目は点グラフとなり、個々のドットは今後数年間の各年末時点におけるFFレート水準についての、各メンバーによる予測を表す。

市場が注目するのはゼロ金利政策解除(最初の利上げ)のタイミング、特定の年にそれが起こると予測するメンバーの数、および2015乃至2016年まで利上げはないと予測するメンバーの数である。FFレートの予測以外にも、FRBは四半期GDP、雇用、インフレーションに関する予測を発表する。何れかの予測が弱気になれば、米ドルは下落するだろう。その後東部時間2:15pmにはバーナンキ議長が記者会見を行い、新しいコミュニケーション方法による市場の混乱の収束に努めることになる。議長はこれまでも言葉数の多い方であり、今回もFOMCによる予測と、それが今後の金融政策に与える影響について、極めて正直な解説が行われるものと思われる。誤解回避のために付言すれば、マーケットが最も知りたいことは二点に集約される。すなわち、この予測が量的緩和第三弾に与える意義についてのより明確な説明、および仮に経済状況がこの長期見通しを逸脱する行動を迫る場合、FEDが如何に対応するか二点である。

外国為替保証金取引や、CFD、デリバティブその他のレバレッジ取引には高いレベルのリスクが潜在しており、預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、全てのお客様に適用している投資商品とは言えません。本レポートの内容は

- 情報提供の目的のみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

弊社及び著者は投資サービス、法律サービス、会計・税制サービスあるいはその他のプロフェッショナル・サービスは提供しておらず、そのような必要が生じた際は適切なプロフェッショナルからサービスの提供を受けてください。同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp © 2012 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複製・複製・転載を禁ず。GD08J.006.011212